

# 奄美の風だよ

発行・編集：奄美自然体験活動推進協議会

Vol 24

(春号：6)

2006. 4. 10

A N C : News Letter



「ムベ」 H18年3月撮影

山々が新緑で満ちあふれる季節となりました。ゆるやかな風によって若葉の香りが漂ってきます。今年に入ってから寒い日はわりと少なく、2月でさえ春と勘違いするような暖かい日もありました。そのわりには4月に入ってもなかなか暖たかさが感じられない日が続いています。それでも草花たちは確かに春の訪れを告げています。海岸近くの崖ではテッポウユリやハマウドの花が咲いていますし、県道沿いではセンダンの木が藤色の小さな花を満開に咲かせています。山地へ続く林道ではムベの花が木に垂れ下がって咲いていたり、オオシマウツギの花が咲き乱れています。植物だけでなく野鳥たちを見ているだけでも春の訪れを実感します。

今までオオトラツグミの一斉調査には参加していましたが、やはり一斉調査の前後に奄美野鳥の会の方々が行う補足調査に今年始めて参加しました。その時湯湾岳公園でサシバが7羽の群れで北へ渡って行くのを見ました。1,2羽が上空を旋回している姿は目にしますが、7羽の群れを見たのは初めてで、しかも帰って行く姿を見たのも初めてでした。冬鳥が帰った後はまもなく夏鳥がやって来ます。キョロロン、キョロロンとさえずる声で目覚める日ももう間近ですね。

## 企画展と講演会のお知らせ

企画展：「マダガスカルと奄美—その成り立ちと固有の生き物たち—」

期 間：平成18年4月29日(土)～5月31日(水)

場 所：奄美野生生物保護センター(企画展示室)

講演会：「マダガスカル島の自然・人・文化」

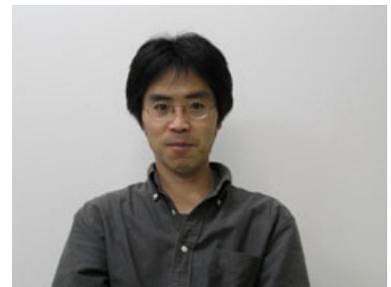
日 時：平成18年4月29日(土)14:00～15:30

講 師：水田 拓(奄美野生生物保護センター・自然保護専門員)

奄美野生生物保護センターでは、4月29日から5月31日まで「マダガスカルと奄美—その成り立ちと固有の生き物たち—」という企画展を開催します。ともに固有種の宝庫であるマダガスカルと奄美、このふたつの地域を比較しながら紹介し、奄美の自然についても一度見直してもらおうという企画です。期間中はマダガスカルと奄美の自然を紹介したパネルを展示しています。また、4月29日には講演会「マダガスカル島の自然・人・文化」というタイトルで講演会も行います。マダガスカルがどんなところか知りたい人、奄美の自然に興味がある人、なぜ奄美でマダガスカルの話をもっといぶかしく思っている人、どなたでも大歓迎ですので、ぜひお越しください。お待ちしております。

### アクティグレングジャーの水田拓さんを紹介します。

はじめまして。4月から奄美野生生物保護センターに自然保護専門員(アクティグレングジャー)として勤めることになりました、水田拓(みずた・たく)と申します。奄美の風だよりで「身近な生きもの情報」を連載されていた中村友洋さんの後任にあたります。



この仕事の話聞いたのが1ヶ月ほど前。それからあれよあれよという間に話が進み、気がつけば大和村に住むことに。つい1ヶ月前まで奄美で暮らすなど思いもしなかったのに、人生なにが起るかわかりませんね。

生まれ育ちは京都ですが、これまで大阪・京都・千葉の大学を転々としながら、マダガスカルでサンコウチョウという鳥の研究を続けてきました。マダガスカルには何度も足を運んでいます、奄美には来たことがなかったので、奄美の生き物については何も知らない状態です。見るもの全てがもの珍しく、これから楽しみながらいろいろ勉強していこうと思っています。

野生生物保護センターでは、おもにオオトラツグミの保護増殖事業に携わるようになります。現在オオトラツグミの巣を探して森の中を歩いていますが、巣どころか姿すらまだまともに見たことがなく、見えない鳥をどうやって調査するのか、これから頓知を働かせる必要があります。なにかよい知恵がありましたらぜひお知らせください。それでは、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

# 協議会活動報告

シンポジウム：「アマミノクロウサギが来た道、国内希少種の過去と現在、そして未来」

場所・日時：奄美会館（名瀬市）：平成18年2月26日（日）13:00～17:00

講師：石井信夫（東京女子医大）、山田文雄（森林総合研究所）、福留脩文（西日本科学技術研究所）、高美喜男（奄美ネイチャーセンター）、水谷知生（鹿児島県）、阿部慎太郎（環境省）

2月26日（日）に名瀬市の奄美会館で、環境省那覇自然環境事務所主催のシンポジウム「アマミノクロウサギが来た道、国内希少種の過去と現在、そして未来」が開催されました。

6名の先生方がスライドを見せながら講演されました。石井信夫さんは、琉球列島は固有種が多く絶滅危惧種が多い。生活環境の変化と外来種の管理がもっとも重要なこと、発達した森林を守っていくことが大切と話されました。

山田文雄さんは、アマミノクロウサギが国内希少種に指定された事は喜ばしいことと話され、アマミノクロウサギの特徴を詳しく説明されました。アマミノクロウサギは減少していて、生息地の保護が必要と訴えました。

福留脩文さんは、「近自然工法」で行う川の改修工事について話され、川に昆虫が卵を産み、魚が住めるように手がけており、石を置く場所を考えて工事していると話され、生き物が住める川づくりには「淵と瀬」が必要と説明されました。

高美喜男さんは、自然体験エコツアーについて話されました。そして必ずウサギが見られるわけではないので、見られなくても満足させられるエコツアーが必要と話されました。

水谷知生さんは世界遺産とアマミノクロウサギについて話されました。日本では13ヶ所ある事などを話され、世界遺産に登録されるためには、地元が感心を持つことが大事なことと話されました。阿部保護官は奄美野生生物保護センターの仕事について話されました。奄美の国内希少種のことや「アマミヤマシギ、オオトラルグミ、アマミノクロウサギ」の保護事業、マンガースの駆除事業について説明されました。

講演後にはパネルディスカッションが行われ、アマミノクロウサギの保護の為の意見交換がされました。



# 希少種保護 ネットワークを



アマミノクロウサギの未来道  
—希少種の保全と展望—

シシヤクは、シシヤクや希少種の保護と、希少種の保全と展望として、アマミノクロウサギの未来道と題して、16日、名瀬市で開かれた。...

シシヤクは、シシヤクや希少種の保護と、希少種の保全と展望として、アマミノクロウサギの未来道と題して、16日、名瀬市で開かれた。...

## 伐採などで生息2割減 「アマミノクロウサギと鳥の未来」シンポ 内外の研究者が提言

名瀬市

16日(土) 5時

## 環境改変、外来種侵入でも絶滅危ぐ

環境改変、外来種侵入でも絶滅危ぐ。アマミノクロウサギの生息地は、伐採などで2割減。...

## 捕食対策、早急に

捕食対策、早急に。アマミノクロウサギの生息地は、伐採などで2割減。...

## 名瀬市でクロウサギシンポ

名瀬市でクロウサギシンポ。アマミノクロウサギの生息地は、伐採などで2割減。...

環境改変、外来種侵入でも絶滅危ぐ。アマミノクロウサギの生息地は、伐採などで2割減。...



アマミノクロウサギの未来道  
—希少種の保全と展望—

世界遺産登録に向け、国、県、住民のネットワークの必要性が確認された公開講座。...

## 世界遺産目指し公開講座 「奄美登録11年以降」

世界遺産登録11年以降。奄美の自然環境の保護と、世界遺産登録に向けた取り組み。...

## 奄美登録11年以降

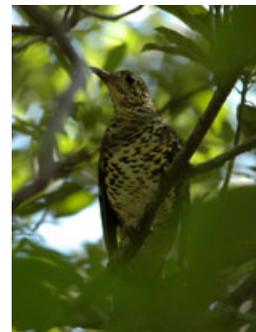
奄美登録11年以降。奄美の自然環境の保護と、世界遺産登録に向けた取り組み。...

## 奄美からの観光客受け入れ

奄美からの観光客受け入れ。奄美の自然環境の保護と、観光客受け入れに向けた取り組み。...

## 身近な生きもの情報 『春の自然日記：山を守ること、海を守ること』

奄美の森に春がやってきました。普段は深緑色をした常緑の山々に、新緑の明るい黄緑が目立っています。奄美の3月は暖かい日が続くのではなく、暖かい日が続くかと思えば、たまに強い寒波が訪れ、まさに“三寒四温”という感じで春がやって来ます。そして野鳥たちにも春の気配が感じられます。干潟には春の使者として、たくさんのシギ・チドリ類が羽を休めます。また、今年は数が少なかったツグミやシロハラも3月になって目に付くようになりました。奄美よりも南で越冬していた鳥達が北へ戻る時期なのです。一方留鳥たちも活発で、ペアで林内を飛び回るルリカケスやオオトラツグミ（右写真）のさえずりが早朝に聞こえ、繁殖への準備が始まります。



さて、これまでこの自然日記では、主に陸上の自然のことを書き綴って来ましたが、奄美の自然の魅力は陸上だけではありません。島を取り囲む海にも素晴らしい自然が広がっています。ダイナミックな景観を作り出す太平洋と東シナ海、常に波の穏やかな大島海峡、“～離”と呼ばれる小さな島々（須子茂離や夕離など）、様々な地形は多様な生物を育み、国内でも奄美近海にしかない珍しい生物（左写真；アケボノハゼ）も記録されます。その多様性を産み出す際たるものはサンゴ礁でしょう。奄美では主に波の穏やかな大島海峡や大島北部で発達しています。

しかし、陸上でも環境改変などの問題が起きているのと同様に、サンゴ礁も白化やオニヒトデの大発生（右写真）などで危機に瀕しています。山と海に起きる異変は、一見すると全く別の事に見えますが、実は密接に関わっています。例えばオニヒトデの発生を例にとると、山で行った開発によって川に赤土が流れ込みます。赤土は海に達し、サンゴの上を覆います。するとサンゴは生きるために必要な栄養分を太陽の光から作ることができずに死んでしまいます。サンゴを作るポリプはオニヒトデの幼生を食べますが、ポリプを失った死んだサンゴはオニヒトデを減らせません。自然界の“食べる－食べられる”バランスが崩れ、オニヒトデは大発生します。大発生したオニヒトデはサンゴを食い荒らし、ますますオニヒトデが増加するという悪循環です。



“魚付林”という言葉を知っていますか？元々は海沿いに広がる魚が集まる林のことですが、最近では川の上流に広がる森まで含めた広義に解釈され、森を守ることによって豊かな海を復活させるキーワードになっています。“地球のことは海から考えると良い”、豊かな海と豊かな森は必要不可欠な関係なのです。（センター中村）

※中村が担当する自然日記は今回が最終回です。ご愛読ありがとうございました。

# ○ 奄美大島情報（寄せられた情報の一部です）



日 時:2006.3.14 4:14  
種 名:アマミノクロウサギ  
発見場所:非公開  
状 況:二次林で目撃  
目撃者: (石田)

日 時:2006.3.6 0:30  
種 名:アマミヤマシギ  
発見場所:非公開  
状 況:2羽、足輪なし  
目撃者: (伊藤)

日 時:2006.3.5 10:00  
種 名:コチドリ、イカルチドリ、ハマシギ  
発見場所:大瀬海岸  
状 況:たくさんいた。  
目撃者: (伊藤)

日 時:2006.3.18 6:00  
種 名:オトラツグミ  
発見場所:非公開  
状 況:谷の両側からさえずっていた。  
目撃者: (中村)

日 時:2006.3.20 15:00  
種 名:ルリカケス  
発見場所:奄美市名瀬  
状 況:2羽でカラスを威嚇していた。  
目撃者: (中村)

日 時:2006.3.13 13:52  
種 名:オーstonオオアカゲラ  
発見場所:大和村  
状 況:ペアでいた。  
目撃者: (永井)

日 時:2006.3.4 15:00  
種 名:ツマクロヒヨモンのサナギ  
発見場所:大和村思勝  
状 況:ゴミバケツについていた。  
目撃者: (細川)

日 時:2006.3.10 17:00  
種 名:ツグミ  
発見場所:大和村  
状 況:芝生広場の木に数羽止まっていた。  
目撃者: (中村)

日 時:2006.3.14 15:00  
種 名:ホソアシナガバチ  
発見場所:名瀬  
状 況:小さな巣を作っていた。  
目撃者: (迫田)

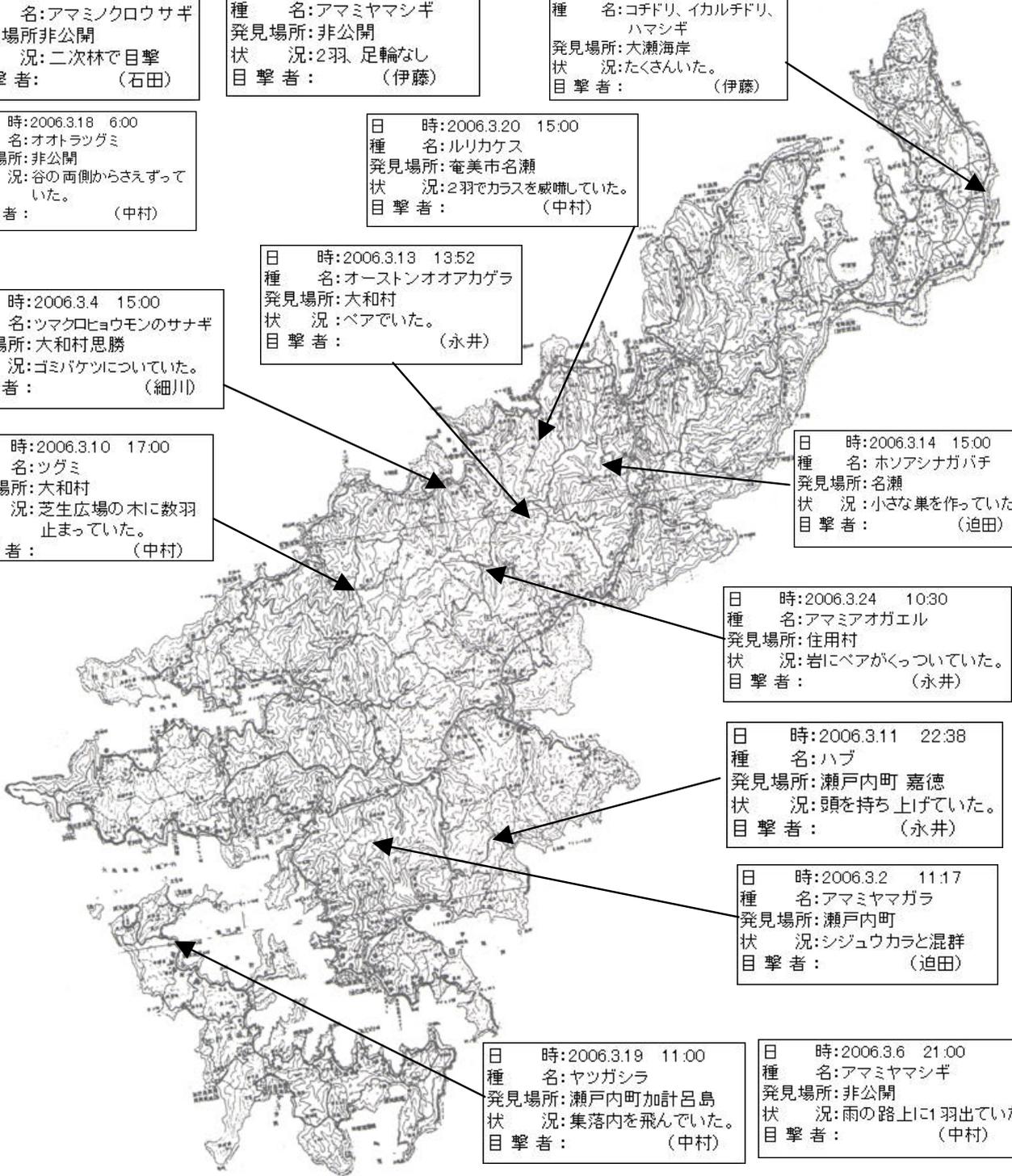
日 時:2006.3.24 10:30  
種 名:アマミアオガエル  
発見場所:住用村  
状 況:岩にペアがくっついていた。  
目撃者: (永井)

日 時:2006.3.11 22:38  
種 名:ハブ  
発見場所:瀬戸内町 嘉徳  
状 況:頭を持ち上げていた。  
目撃者: (永井)

日 時:2006.3.2 11:17  
種 名:アマミヤマガラ  
発見場所:瀬戸内町  
状 況:シジュウカラと混群  
目撃者: (迫田)

日 時:2006.3.19 11:00  
種 名:ヤツガシラ  
発見場所:瀬戸内町加計呂島  
状 況:集落内を飛んでいた。  
目撃者: (中村)

日 時:2006.3.6 21:00  
種 名:アマミヤマシギ  
発見場所:非公開  
状 況:雨の路上に1羽出していた  
目撃者: (中村)



1 : 250,000

# 春にみられる野生生物

※参考文献：図鑑奄美の野鳥：琉球弧・野山の花  
：山溪ハンディ図鑑9

「ツクシガモ」 ガンカモ目 ガンカモ科 危惧種 全長62.5cm

全体的に白っぽい見えるカモで、顔は緑色光沢のある黒色で、胸から背にかけてぐるりと赤褐色の幅の広い帯模様がある。また、背に2本、腹の中央に1本の黒くて太い帯があり、尾は白いが、先端が黒く、くちばしは赤で足は赤っぽいオレンジ色である。ツクシガモのツクシは「筑紫」の意で、主に九州地方の干潟などに冬鳥として渡来するが、数は少ない。奄美にも稀に渡来する。

鳴き声：アツツ アツツ、ガッガッなど

記録時期：12月～3月

記録分布：奄美大島



「ハロウエルアマガエル」 カエル目 アマガエル科 大きさ3～4cm

細身で透明感のあるアマガエル。全身緑色一色に見える。鼻先から鼓膜の後ろまで黒っぽい帯状の模様のはつきしない。ニホンアマガエルのように、極端に体の色を変化させることはなく緑色が薄くなったり濃くなったりする程度。繁殖は3～5月に行れる。産卵場所は、田んぼや水溜まりなどの止水。卵塊は小さなもので、ばらばらと複数の場所に産みつけられる。オタマジャクシはその年の夏までに4cmになり、変態して上陸する。

鳴き声：ギーギーギーと連続して鳴く。

分布：南西諸島



「ヒメアリドオシ」 アカネ科

山地の林内に生える高さ30cm以下の常緑低木。小枝は密に分岐してやや水平に広がる。節には葉の2/3より長い刺があり、葉は長さ1cm以下、先は短く針状にとがる。花冠は長い漏斗状。果実は球形で赤熟する。基本種のアリドウシは本州以南に分布し、数種類の変種に分かれるので分類が難しい。リュウキュウアリドウシは奄美大島以南の琉球固有種であり、高さ2mに達し、若枝は無毛、普通刺はないが、まれにごく短い刺をもつものがあり、葉は楕円形～長楕円形で裏面につやがある。

分布：本州（紀伊半島）～徳之島



## 後記

4月が過ぎれば奄美は本土より一足早く梅雨がやって来ます。それまでの間、春を満喫に植物や虫、野鳥などの観察に出掛けてみてはいかがでしょうか。

平成18年度も協議会にご理解ご協力をお願いいたします。

**編集・発行：奄美自然体験活動推進協議会事務局**

□ 〒894-3192

鹿児島県大島郡大和村大和浜100

大和村役場 企画財政課

TEL：0997-57-2111

□ (連絡・書類等送付先)

〒894-3104

鹿児島県大島郡大和村思勝字腰ノ畑551

奄美野生生物保護センター内

TEL：0997-55-8620

FAX：0997-55-8621